

歩み・継続・進化つづける 新時代の松田 未来を拓く



就任のごあいさつ 4期目への抱負

松田町長 本山 博幸

清秋せいしゅうの候、松田山の新名所「コキアの里」では、コキアが赤く色付き始めた今日この頃、町民の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

去る9月7日の松田町長選挙において町民の皆さまからご信託しんたくを賜り、9月23日から4期目となる町政運営を担わせていただくことになりました。これからの4年間に、おいてもこれまで同様、ご指導ごしどうご鞭撻べんたつを賜ります様、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、松田町は、平成26年5月に「消滅可能性都市」に分類されていたことを覚えていらっしゃるでしょうか？

その後、松田町は積極的に国や県の補助金を獲得すべく挑戦し、町の未来を担うための各種事業を進めてまいりました。持続可能な町の実現には、若い世代の人口を増やすことが欠かせません。そこで松田町は、初めに教育関連の環境整備として松田小学校を全国4例目、神奈川県内初となる木造3階建校舎への建替えや県内自治体に先駆けてICTを活用したオンライン学習、英語指導助手(ALT)の



松田小学校校舎

増員などを行い、併せて新松田駅周辺整備事業の推進や寄地区の振興、高齢者や生活困難者支援として移動販売事業や福祉タクシー助成、パークゴルフ場の18ホール化など、数々の事業に取り組んでまいりました。その結果、令和6年4月の発表では、これまでの施策の成果により、消滅可能性都市から「脱出」をする結果となりましたが、これまでの道のりは「当たり前」なことではありません。

今、これまで苦勞を重ね進化を続けてきた歩みを止めると、すぐに消滅可能性都市に逆戻りします。特に時代の変革期を迎えたにもかかわらず、「現状維持」の発想こそが「消滅可能性都市」に向かう最大の原因であります。

現在、松田町の人口は未だに減少傾向ではありますが、これまでの町の取り組みや近未来への期待の高まりによって移住者が増加傾向にありますので、今だけ・ここだけ・自分だけなどの「自分ファースト」の考えによって、

松田町のこれまでの取り組みを継続し、人口減少の抑制につなげている中、未来までも奪う・壊すことは、決してあってはなりません。

私は今後も「チルドレンファースト」の旗印を掲げ、子どもたちが住みたい・子ども目線のまちづくりを推進し、子どもたちが子育て世代となりましたら、松田町に戻って来る。そして、「おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん」と「親子三世代が、近くに、一緒に笑顔で安心して暮らす町」を目指します。

